



2.2

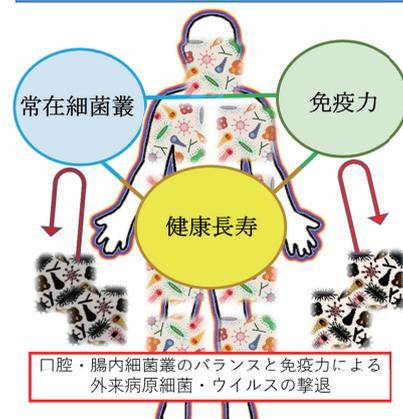
5歳未満の子供の発育阻害や消耗性疾患について国際的に合意されたターゲットを2025年までに達成するなど、2030年までにあらゆる形態の栄養不良を解消し、若年女子、妊婦・授乳婦及び高齢者の栄養ニーズへの対処を行う。

沖永 敏則
歯学部
細菌学講座

歯周病の悪化メカニズムを免疫応答 (ヒトの防御機構) と関連づけて解明する

私たちの体には、約100兆個以上の菌が住んでいます。口の中にもさまざまな菌の集まり（フローラ）があり、善玉菌や悪玉菌など多様な菌がバランスよく存在する状態が望ましく、口内環境を整えば、腸内環境もよくなり、免疫も正常な状態を保つことができますと考えられています。口内の細菌が関与する歯周病は、全身の病気にも関与することが報告されています。たとえば、歯周病によるサイトカイン（免疫細胞から分泌されるタンパク質）が糖尿病を悪化させ、逆に糖尿病が悪化しやすい人は口内環境もよくない場合が多いことも分かってきました。歯周病の原因菌は、大腸がんやすい臓がんなどの悪性度を高めるリスクになるとも言われています。健康長寿と口腔細菌の関連性を明らかにすることで、口腔の健康管理から、健康増進を目指しています。

口腔健康 ⇒ 腸内健康 ⇒ 健康長寿



message

歯周病はヒトの口腔内における慢性感染症です。若年、中年層から歯周病をはじめとした様々な口のトラブルをコントロールすることで口腔内健康を保持し、これが、老年層での栄養ニーズへの対処につながると考えます。